

あしたのあさひ

～P T A アクションと校長室をつなぐ～

県立旭高等学校長 古谷康司

伝える力

3 月 2 日の卒業式は厳粛の中にも、卒業生から保護者、教師、後輩、そして仲間への感謝の気持ちがよく伝わる式となり、来賓の方々からも、素晴らしいとの声をいただきました。

卒業生は、3 年間の本校での教育を通して、いろいろな力を身につけ、これらの力を生かして、ますます活躍してくれると期待しています。

校長として、「常に一つ上を目指して」と「考えて行動しなさい」と繰り返し伝え、課題を見つけ、解消する計画を立て、実現に向けて粘り強く行動することを求めてきました。特に今年度の卒業生は、戸惑いや不安もあったと思います。しかし、困難を経験したことで、最上級生となったときには、学校をよりよくするため、いろいろなことに挑戦してくれました。生徒の成長を喜ぶとともに、この行動力を後輩が引き継いでほしいと思います。

「**向上心**」と「**考える力**」が身についた今、今後は「**伝える力**」を身につけてほしいと話しています。ピョンチャンオリンピックでのメダリストのスピーチが素晴らしかったのは記憶に新しいことです。自分の努力に加え、チームとして支えてもらうためにも、自分の思いは伝えなければなりません。とにかく自分の考えを伝えることが大切です。

アウトフットする力

新しい学習指導要領では、「身につけさせたい力」の育成が求められています。本校では 2022 年度からの導入に先がけて、具体的な力を示すことにしました。

「**様々な情報から自分が必要なものを選択し、論理的にまとめ自分の考えとして表現する**」これを「**アウトフットする力**」として、様々な教育活動における目的と定め、具体的な計画を立て、成果を出していく所存です。校長としては、生徒に、全校生徒の前で話をする機会を設けるなどして、「伝える力」について生徒同士で切磋琢磨させ、成長させたいと考えています。

大学入試対策

2020 年度から、センター試験は大学入学共通テストに替わります。英語では「話す力」の育成に、国語・数学では記述問題に対応できるように授業を改善していきます。